

**指揮：小林 研一郎 Ken-ichiro Kobayashi, Conductor**

東京芸術大学作曲科および指揮科の両科を卒業。1974年第1回ブダペスト国際指揮者コンクール第1位、特別賞を受賞。“プラハの春”、“アテネ”、“ルツェルン・フェスティバル”等、多くの音楽祭への出演やヨーロッパの一流オーケストラを多数指揮。東京都響、読売日響、日本フィルのヨーロッパ公演の指揮者、国際指揮者コンクール審査員、都響正指揮者、東響客演指揮者、京都市響常任指揮者、ハンガリー国立響音楽総監督・常任指揮者、チェコ・フィル常任客演指揮者、日本フィル音楽監督、マタフ・ハンガリー交響楽団首席客演指揮者、アーネム・フィル常任指揮者などを歴任。

ハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、星付中十字勲章（民間人としては最高の勲章）、2010年にはハンガリー文化大使の称号を授与される。2011年文化庁長官表彰を受ける。

現在、ハンガリー国立フィル、日本フィル、名古屋フィル桂冠指揮者、読響の特別客演指揮者、九響の首席客演指揮者、東京芸術大学、東京音楽大学およびリスト音楽院名誉教授などを務める。2012年7月より東京文化会館音楽監督に就任。

ポニーキャニオン、オクタヴィアレコードの両社から数多くのCD、DVDが発売中。

2000年の日蘭交流400周年記念に作曲を委嘱され、両国をモチーフにした管弦楽曲「パッサカリア」を作曲。ネザーランド・フィルにて初演され、4日間にわたり満員の聴衆の熱狂的スタンディング・オベーションで迎えられた。

2002年5月の「プラハの春音楽祭」オープニングコンサートの指揮者として、東洋人として初めて起用され、大統領臨席のもと「我が祖国」全曲がチェコ・フィルにて演奏され、コンサートの模様は全世界に向け放送され、日本人初の快挙として国内外の数多くのメディアで紹介された（同公演のDVDはコロムビアミュージックより発売中）。

2003年にはハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団を率いての日本ツアー、同年9月には10数年ぶりにオペラ公演（ブッチェニ「蝶々夫人」（二期会））、2005年にはマリンスキー・フィルとの日本公演、2006年には日本フィルの創立50周年記念ヨーロッパ公演、2007年および2009年にはアーネム・フィルハーモニー管弦楽団との日本ツアーを指揮し、好評を博した。国内外のオーケストラへの客演も数多く、現在最も活躍し注目されている指揮者である。

**独奏：小林亜矢乃 Ayano Kobayashi, Piano**

東京音楽大学ピアノ演奏家コースに特待生・奨学金を授与、首席で卒業。

播本三恵子、田崎悦子、倉沢仁子、各氏に、ケルン音楽院にてパヴェル・ギリロフ氏に師事し、ディプロムならびに国家演奏家資格取得コースを最高点、首席で卒業。

（財）ロームミュージックファンデーション音楽在外研究生。

日本音楽コンクール・ピアノ部門入選、イタリアAMAカラブリア国際ピアノコンクールで第二位、エンニョ・ポリーノ国際ピアノコンクールで第三位他、多数の国際コンクールにて上位入賞。

ソリストとして、ネザーランド・フィル、ハンガリー国立フィル、チェコ・フィルと各国で共演の他、名古屋フィル、関西フィル、大阪フィル、また日本フィルの定期演奏会に出演、及び日本フィル九州ツアー、北海道ツアーではソリストとして招かれ、各地で絶賛を博す。セビアのスプリングフェスティバルに招待され、リサイクルで聴衆全員のスタンディング・オベーションを受ける。長崎平和祈念および震災のためのチャリティーコンサート、また、わかりやすい解説を交えたリサイクルも開催するなど、国内外で活躍している。

類稀な深みのある音楽で、聴衆を魅了する音楽家として、今後の活躍が期待されている。

**管弦楽：日本フィルハーモニー交響楽団 Japan Philharmonic Orchestra**

1956年6月創立、楽団創設の中心となった渡邊暁雄が初代常任指揮者を務めた。当初より幅広いレパートリーと斬新な演奏スタイルで、ドイツ・オーストリア系を中心としていた当時の楽壇に新風を吹き込み、大きなセンセーションを巻き起こした。その後イゴール・マルケヴィチ、シャルル・ミュンシュなど世界的指揮者が相次いで客演、1964年にはアメリカ・カナダ公演で大成功を収め、創立から10年足らずの間に飛躍的な発展を遂げた。

2011年に創立55周年を迎えた日本フィルは、この歴史と伝統を守りつつ、さらなる発展を目指し、現在「オーケストラ・コンサート」「エデュケーション・プログラム」「リージョナル・アクティビティ」の3つの柱で音楽を通じて文化を発信している。

質の高い音楽をお届けする「オーケストラ・コンサート」では東京・横浜・さいたまの首都圏3都市での定期演奏会の他、年間150回以上の公演を行っている。また音楽との出会いを広げる「エデュケーション・プログラム」では今年で38回目を迎えた『夏休みコンサート』をはじめ、年間150回を超える室内楽演奏や学校公演を行なっている。

音楽の力で様々なコミュニティに貢献する「リージョナル・アクティビティ」では37年を越える九州全県での公演活動をはじめとして、さまざまな地域文化の発展に寄与している。

2009年に首席指揮者にロシアの名匠アレクサンドル・ラザレフを迎え、演奏面でも近年飛躍的に演奏力が向上したと各方面より高い評価を得ている。指揮者陣としてはこの他、首席客演指揮者のピエタリ・インキネン、桂冠指揮者の小林研一郎を中心に据え、さらに2012年9月からは山田和樹が正指揮者として、西本智実がミュージック・パートナーとして加わり、さらに充実した指揮者陣のもと、オーケストラの可能性を広げている。